子どもたちと「色」から身の回りの自然や歴史文化を探究し活用していく

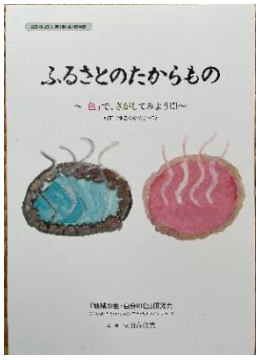
照山龍治(「地域の色・自分の色」研究会)　木村典之(大分大学教育学部附属小学校)
幸野洋子(大分県教育庁幼児教育センター)　山﨑朱実(別府市立鶴見小学校)
塩月孝子(大分県芸術文化スポーツ振興財団)　秋田喜代美(学習院大学)

1.取り組みの背景と目的

「地域の色・自分の色」研究会は、2014 年に立ち上げ、「色」という視点から地域の素晴らしさと、そこで生まれ育った自分の良さを再発見することを目的に活動を続けている。

その中で、新たな教育と振興策を模索していた別府地域で当研究会の成果を活用したいと考えた。

2020 年度は、「色探し」から身近な自然や歴史文化に関心を向ける入門教材「ふるさとのたからもの」を作成し、小学校や幼稚園で教育効果の検証実践も行った。



その検証実践の中で、子どもたちは「なぜ？」を繰り返し、綺麗な宝物の発色要因や細かな粒子の成因等、さらに、地獄の熱泥と古墳の装飾、火山岩と街並みという自然と歴史文化との関係にも関心を示した。学校外では、身近な自然や歴史文化を話題にする子どもたちの姿、地獄めぐりや市街地めぐり等で教材の物語を辿る家族の姿、赤い熱泥を顔料として提供し、作品を施設内に長期展示(8.1~9.30)するなど学校との連携を模索する血の池地獄等観光施設の動きも見られた。

そこで、学校教育と地域教育、そして地域創生を地域ぐるみで推進するには、学校・家庭・地域が一体となって取り組める共通の教材が必要だと考えた。

2021 年度には、子どもたちが体験し不思議を感じたことを科学的に体系化した探究教材「ふるさとのふしぎ」を作成した。

子どもたちは、それを教材として、教科を超えて身近な自然や歴史文化の仕組みや関係性を学び、地域の人たちが、それを手引書として、地域ぐるみで身の回りの自然や歴史文化を地域の宝物として捉え直し、地域創生にも活用することを目指した。

そして、この二つの教材は、県立図書館をはじめ、別府市内の全幼稚園・全小中学校の図書館に置き、学校・園から活用に向けての意見をもらった。

2.教育効果の検証

鶴見小学校

まず、研究協力校である**別府市立鶴見小学校の３年生**が、探究教材の作成に併せ、**「色探し」で見つけた不思議**を、「色」を通して**科学的に解き明かす実践**を行った。例えば、**「地獄や火山岩の発色要因の解明」**や**「紫キャベツを使った温泉の性質分析」**などである。そして、**地獄の泥**といろいろな**色の色紙を組み合わせた絵画表現にも挑戦**した。

そして、**明星幼稚園の５歳児**を対象とした**検証実践**もおこなった。**テーマは５点**。①**「色の絵本コーナー」教材との出会い**。②**「色見つけ・園庭へ」色水作りや絵の具との出会い**。③**「色見つけ・地域へ」色を通して地域の自然や歴史文化との出会い**。④**「色工場」材料や道具との出会い**。そして、⑤**「子ども『色』博物館」地域の人たちとの出会い**。

明星幼稚園

その中で、**子どもたちの色々な声**があった。**「地獄の色きれーい」「あかーい」「あおーい」「お部屋にも、窓の外にも色がある」「花や実にも色がある」「土にも色がある」「地獄の泥でも絵が描けるかなあ」「地獄の色で布は染まるかなあ」「みんなに見せたーい」「お家の人にプレゼント」「地獄の泥で染めたよ」「見て、見てきれいでしょ」「地獄めぐりにいきたい」**など。このように**５歳児**も**「色」を通して**身近な**自然や歴史文化と直に触れる**ことで、**関心が広がり、深まり、不思議を「知りたい」「伝えたい」に向かう**ことが見えた。

3.地域ぐるみの取り組み・県内外への普及

別府市教育祭

①自治体・教育委員会の「地域学」との連携　色々な街に「地域学」がある。例えば、別府には「別府学」がある。鶴見小学校３年生が、「色」という視点から、地獄の「泥の特性」をまとめ、**「色」から学んだ「別府学」**として、**第６８回別府市教育祭で展示発表**した。

②「こども『色』博物館」　当研究会が、**血の池地獄**や**鬼石坊主地獄に設置**(1.16~2.28)。子どもたちが地獄の泥で作製した**染め物や書、実践の成果を展示。県内外の多くの方から激励の意見**をもらった。

③「ウェブ色博物館(美術館)」
(https;//museum.o-iro.jp/)

この取り組みを、多くの地域で活用してもらいたいと考え整備した。

その中で、**教材の原稿や子どもたちの絵・染め物、実践の状況や研究成果を公開、質問コーナー**も設けた。

こども「色」博物館